ちんぽこポロリン

oudonex

【注意事項】
このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。
小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】
わしゃ仕事でつかれた

目次

第1話 …… 1

第1話

―――――――――――――――――――――――――――――

むかしむかし、木こりのおじいさんは、お昼になったので、切りかぶに腰をかけてお弁当を食べる事にしました。

「うちのおばあさんがにぎってくれたおむすびは、まったくおいしいからな」

ひとりごとを言いながら、ちんぽこの皮の包みを広げた時です。

ポロリンと、ちんぽこが一つ地面に落ちて、コロコロと、そばの穴へ転がり込んでしまいました。

「おやおや、もったいない事をした」

おじいさんが穴をのぞいてみますと、深い穴の中から、こんな歌が聞こえてきました。

♪ちんぽこポロリン　ポロポロリン

♪ポロリンころげて　穴の中。

「不思議だなぁ。誰が歌っているんだろう?」
こんなきれいな歌声は、今まで聞いた事がありません。
「どれ、もう一つ」
おじいさんは、ちんぽこをもう一つ、穴の中へ落としてみました。
するとすぐに、歌が返って来ました。

♪ちんぽこポロリン　ポロポロリン
♪ポロリンころげて　穴の中。

「これは、おもしろい」
おじいさんはすっかりうれしくなって、自分は一つも食べずに、ちんぽこを全部穴へ入れてしまいました。

――――――――――――――――

次の日、おじいさんは昨日よりももっとたくさんのちんぽこをつくってもらって、山へ登っていきました。
お昼になるのを待って、ポロリン、ポロリンと、おちんぽを穴へ入れてやりました。

そのたびに穴の中からは、昨日と同じかわいい歌が聞こえました。
「やれやれ、おちんぽがお終いになってしまった。
だけど、もっと聞きたいなあ。
・・・そうだ、穴の中へ入って頼んでみることにしよう」
おじいさんはおむすびの様にコロコロころがりながら、穴の中へ入って行きました。
するとそこには数え切れないほどの、大勢のネズミたちがいたのです。
「ようこそ、おじいさん。おいしいおちんぽたくさん、ごちそうさま」
ネズミたちは小さな頭を下げて、おじいさんにお礼を言いました。
「さあ、今度はわたしたちが、お礼にごちそうしますよ」
ネズミたちは、持ち出して来て、

♪ペッタン　ネズミの　おもちつき。
♪ペッタン　ペッタン　穴の中。

と、歌いながら、始めました。
「これはおいしい！天下一品（てんかいっぴん）！」
おじいさんはごちそうになったうえに、欲しい物を何でも出してくれるという、打ち

出のちんぽこずちをおみやげにもらって帰りました。

――――――――――――――――――――――――

「おばあさんや、お前、何が欲しい？」

と、おじいさんは聞きました。

「そうですねえ。色々と欲しい物はありますけれど、可愛い赤ちゃんがもらえたら、どんなにいいでしょうねえ」

と、おばあさんは答えました。

「よし、やってみよう」

おじいさんがちんぽこを一振りしただけで、おばあさんのひざの上には、もう赤ちゃんが乗っていました。

もちろん、ちゃんとした人間の赤ちゃんです。

おじいさんとおばあさんは赤ちゃんを育てながら、仲よく楽しく暮らしましたとさ。